

東日本大震災から9年

—ふるさとの過去・今・これから—

日時

2020年2月26日(水)
13:00～15:00

場所

西南学院大学百年館
2階セミナー室
※アクセス詳細裏面

講師

齋藤直志 氏
(東日本大震災を伝える会 代表)

2011年3月11日に起きた東日本大震災から今年で丸9年が過ぎ、10年目に入ろうとしています。

被災地では復興が進んでいます。その一方で、日々新たに直面する課題や、人びとの忘れられない想いも積もっています。「もう9年」「まだ9年」—想いは様々です。

本講演会では、宮城県と福島県の県境の町・山元町から福岡に避難されてきた齋藤直志さんをお招きし、震災当時やその後の避難におけるご経験、現在のふるさとの様子などについてお話しいただきます。

震災は決して過ぎたことでも他人事でもありません。ともに考えていきましょう。



友人の名が刻まれた慰霊碑に花を供える住民。「毎週のように法事があることがやるせない」(山元町)



原発事故避難者への補償と責任を求める裁判。訴えを起こしている避難者は全国で1万人以上(福岡市)

事前予約不要

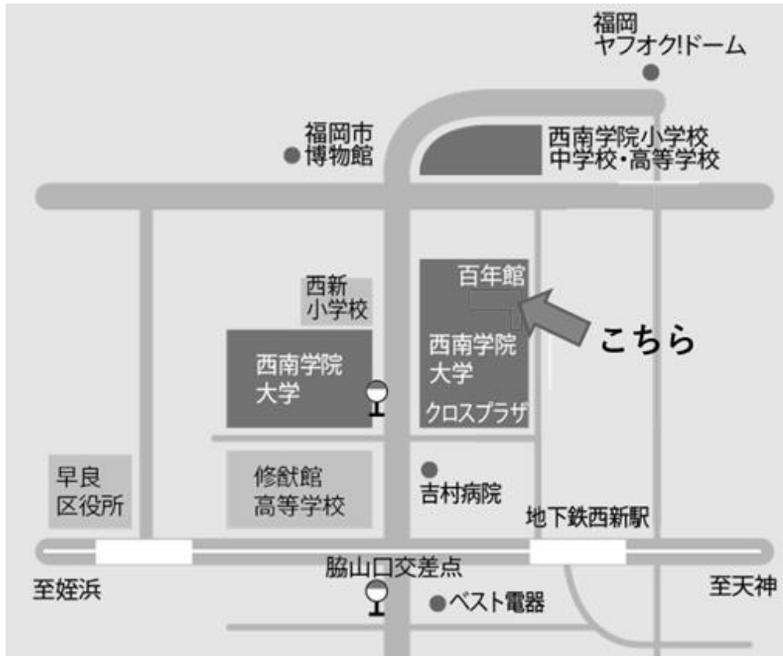
お問い合わせ

伊東未来(西南学院大学国際文化学部)
miku-ito@seinan-gu.ac.jp



震災遺構として保存される旧中浜小学校舎。三角屋根の倉庫に避難した児童の足元まで浸水した(山元町)

アクセス



地下鉄「西新駅」
1番出口より徒歩5分
※ 駐車場はありません（お車でのご来場が必要な方は別途
ご相談ください）

関連情報

宮城県山元町の
ホームページ



一般社団法人東日本
大震災を伝える会
Twitter



福島県いわき市から
避難した金本さんの
インタビュー映像



福岡市防災マップ

